

地元のことを知る旅 その3
内山の第六天神社をのぞく

正月三が日が明けて、少しばかり行動を再開して見ようという気分になり、午後の散策を試みた。
国道16号線を渡って内山（千葉市花見川区内山町）方面をぶらついてみた。
花見川の支流である勝田川に、宇那谷谷（うなやだに）の流れが合流する地点にある小高い丘のような山が「内山」である。勝田川の流れは海拔10mほどで、内山は海拔20m余。
内山の山裾に、谷沿いに広がる集落のほぼ中央部に第六天神社がある。

(<https://yahoo.jp/6QvEHR>)

<1> 第六天とは何か

仏教の世界における三つの世界観

1. 六道・・・地獄界・餓鬼界・畜生界・修羅界・人間界・天上界
2. 十界・・・六道に声聞界・縁覚界・菩薩界・仏界を加えた世界
3. 三界・・・欲界・色界・無色界

第六天は、須弥山にいる神々の一つで、別名を他化自在天（たけじざいてん）という。

天上界の中でも人間界に近い下部の「六天」は、欲望に束縛される世界で、欲界に含まれ、「六欲天」として分けられる。

- ① 第一天：四天王衆天（しだいおうしゅうてん）

持国天・増長天・広目天・多聞天の四天王がいる場所

- ② 第二天：忉利天（とうりてん）＝須弥山の頂上、帝釈天がいる場所

- ③ 第三天：夜摩天（やまてん）＝閻魔天がいる場所、快樂を伴う

- ④ 第四天：兜率天（とそつてん）＝須弥山の頂上、菩薩が修業している場所

- ⑤ 第五天：化乐天（けらくてん）＝娯楽の境、楽変化天ともいう

- ⑥ **第六天**：他化自在天（たけじざいてん）

三界における欲界の最高位の天、この世のすべての欲望を叶える神

<2> 第六天神社とは

第六天・第六天神社は千葉方面には沢山ある。調べてみたら、旧の武蔵国に三千余あるが、長野・山梨・静岡までで、それより西には存在しない神社らしい。戦国時代に織田信長が信奉しており、自らを「第六天魔王」と名乗っていた。織田氏と北条氏が広めた信仰だとする説が有力。

のちに天下をとった豊臣秀吉が第六天の神威（織田勢の再興）を恐れて、潰しにかかったことが西側に存在しない理由だとも言われている。

前項に示した、第六天（他化自在天）を主祭神として崇めた神社であり、疫病退避・願望成就などの現世利益を狙った信仰で、地域の産土神として祀られているものが多い。

明治時代に入り神仏分離の政策により、多くの神社が主祭神を、淤母陀琉神（おもだるのかみ：男神）と阿夜訶志古泥神（あやかしこねのかみ：女神）に変更した。

古事記によれば、高天原に出現した天神（あまつかみ）が天地を創造した折、台地が整った時に現れた神が、淤母陀琉神（おもだるのかみ）と阿夜訶志古泥神（あやかしこねのかみ）で、この二柱の神の次に、伊邪那岐神（いざなぎのかみ：男神）と伊邪那美神（いざなみのかみ：女神）が出現して、国が

生み出されることになった。

<3> 内山町の第六天

里道に面した鳥居をくぐると、内山という小山に入り少しずつ上って行くようになる。右手に二十三夜塔・庚申供養塔が並び、左手には羽黒山・月山・湯殿山講の記念碑が立ち並ぶ。講の記念碑は昭和30年代・40年代のものもあり、最近まで続いていたことがわかる。



その先に建つのは、境内社の古峰神社と疱瘡神と浅間信仰（富士登山）の記念碑。どこの田舎にもある講の記念碑。昔の人は、下総の不便な里から羽黒山・富士山まで拝みに出かけて行った。江戸に出るまでで一日か二日かかりなのに、驚きである。

社殿の近くに建つ神社の由緒を記した碑文は、少々汚れていた上に逆光で判読が難しかった。辛うじて読み取れた部分の情報を見ると、「神社の創立時期は不詳」だが、「石塔などの刻字から読み取ると、安政年間（1855年～1860年）、文化文政年間（1804年～1830年）には存在していたと考えられる」、「地域の産土神」として崇められていたことがわかった。

祭神は「淤母陀琉神と阿夜訶志古泥神」となっており、途中で祭神を変更したという記述はないが、前述のように、明治時代に主祭神の変更が行われたと考えられる。

神社の前の道は、大正時代の国土地理院の地形図を見ると、「佐倉と千葉を結ぶ里道」だったようである。

<4> 辯才天と太子堂

第六天の前の農道の分岐点に小さな石塔が建っている。頭頂部に刻まれた文字を読めば、微かな窪みで「辯才天」と読み取れた。正面に辯才天の像が刻まれているべきなのに、削り取られたような歯型の跡が付いていた。辯才天は、ヒンズー教で川を神格化した女神サラスヴァティが原型らしい。一般には、音楽や芸術の神や水の神であったり、戦勝祈願の神であったりもする。さして水量が多くもない宇那谷谷の流れのほとりに水の神があるのはなぜだろうと不思議に思ったが、単純な願望成就なのかもしれない。（右上写真）



辯才天から北へ 5mほど進むと、民家の間の空き地に「太子堂」がある。（下右写真）

さして目立たぬちいさな手作りの堂が造られているが、その後ろに建つ「松戸勘次郎顕彰碑の方が大きくて威圧的に感じる。

沈む太陽と競り合いながら家路についたら、途中で素晴らしい空を楽しむことができた。（下左写真）

以上



＊蛇足：内山第六天への行き方

京成本線勝田台駅南口から、「こてはし団地行バス（勝 01）」

「内山入口」バス停で下車、徒歩 5 分